



おもな記事 西興部猟区ファーストシーズン (p2) シカ肉は優等生 (p3) 上條シェフの世界堪能 (p3) ニュージーランドのシカ産業 (p4) シカ防止には緑のライト?! (p4) j近藤誠司教授のエゾシカ質問箱 (p5)

## エゾシカ生け捕りに成功

### 資源化に向け生体で捕獲



エゾシカ協会会員 **本間浩昭**

激増したエゾシカの削減策と食肉としての可能性を探るため、北海道根室支庁が根室市郊外に設置した箱わなに3月10日、メスの子1頭がかかり、生け捕り作戦は幸先の良いスタートを切りました。北海道庁はこれまで農地をフェンスで囲ったり、狩猟や有害駆除で絶対数を減らしてきましたが、ハンターの高齢化に加え、死体の放置などの問題が山積していることから、食肉としての活用策を探ることで新たな段階に入りました。

捕獲第1号は、1歳半ほどのメス。体長1.2m、体高0.7m、体重34kg。箱わなに入ってからどの程度経過していたのかは分かりませんが、前日の午前8時に見回りに行った際には、入っていなかったため、その後の24時間のうちに入ったようです。鼻血を出しており、捕獲のショックが暴れたための傷とみられています。

その場では殺さず、箱わなに入れたまま約90km離れた根室管内中標津町計根別のシカ肉解体処理場に運ばれました。ポルトピストルで急所を撃って気絶させ、畜肉と同じ扱いで屠殺しました。

捕獲や運搬によるストレスで肉質が変化する恐れがあり、どの程度肉質が悪くなっているか、射殺した肉とどう違うかなどを調べるため、皮をはいてから冷蔵庫で保管し、翌日解体を行ない、部位ごとに冷凍しました。

その後も順調に捕獲され、すでに計3頭(3月21日現在)を生け捕りしました。今年は積雪が少ないことも影響して、「仲間がわなにかかっても、2、3日で周囲にまいた牧草やトウモロコシに集まってくる。週に2頭程度はかかるのではないかと」箱わな作りを手がけた西尾裕司さん(42)は話します。ただ、捕獲されたのが、いずれも生後1歳半程度の

メスの子だったため、「来年は、わなの大きさをひと回り大きくしてみる」と話しています。

箱わなは、縦1.7m、横0.9m、高さ1.3mで、獲物が入ると入り口が瞬時に

閉まるような仕組み。早朝や夕方にエゾシカが水を飲みに来る“シカ道”にわなを設置。周囲と内部に牧草やトウモロコシを置いて慣れさせた後、10日後に本格稼働を始めたところ、設置から3日目でスピード捕獲されました。

箱わなは、同市長節湖畔に近い山林につながる獣道など2カ所に設置され、わなの内外に牧草やトウモロコシなどをまき、おびき寄せました。

北海道庁は「エゾシカ保護管理計画」に基づいて1998年度から緊急減少措置に着手、道東4支庁だけで推定20万頭(93年)から一時は7割(約14万頭)まで減少させましたが、03年ごろから再び増加に転じました。

その一方で、道庁は農地をフェンスで囲う対策も進めてきましたが、保護されたのは畑だけで、囲いきれない釧路～根室管内の牧草地や森林に集まる傾向が強まっています。さらに道東以外にも生息域を拡大し、道内で現在三十数万頭が生息しているとみられます。

計画通り減少しない背景に、ハンターの高齢化と減少があるとみて、同支庁は欧米で最高級のジビエ(狩猟鳥獣肉)と



写真 根室支庁提供

してもてはやされているベニソン(シカ肉)の資源としての価値に着目し、衛生的で品質の良いシカ肉の供給に向け、04年度から「エゾシカ資源化検討事業」を始めていました。同支庁では将来的には生け捕ったエゾシカを一定期間飼って、通年供給できるようなシステム作りをめざしています。効率的な捕獲方法をテストし、試験的な放牧なども行なった上で、捕獲から解体処理、販売までのあり方を3年間かけて総合的に検討し、採算性などを探ります。

個体数の調整をハンターに頼る従来の手法とは別に、生け捕って放牧し、衛生的な施設で解体して食品として流通させ、地域の振興につなげるのが狙い。資源化に向けた事業が具体的に始まったといえます。

初年度の予算は、わずか200万円。同支庁の和田秀樹・地域政策部長「同じ個体数調整であっても、品質を高めて供給し、産業化の切り口を開こうというもの。食べて供養する文化があってもいいのではないかと」語っています。

今年の捕獲は3月31日まで行なわれません。

文・伊吾田宏正 (NPO法人西興部村猟区管理協会)

写真・高畑秀美 (上)

NPO法人西興部村猟区管理協会 (下)



プロガイド  
1年生が振り返る  
西興部猟区の  
ファーストシーズン

# You've got it !

おかげさまで  
西興部村猟区は  
2月28日に初め  
しました。去年  
間の開猟期間中  
(日)のお客様の

西興部



(「新人ハンターセミナー」での入  
猟3名含む)。個人別には13名のお  
客様に入猟いただき、うち2回、3  
回と来村して頂いた方はそれぞれ3  
名ずつとなっています。この13名の  
内訳としては、7名が関東圏を中心  
とした道外からで、残り6名は道内  
からでした。延べ来村回数は22回で  
した。

## 1人1日あたり0.88頭！

捕獲状況を見てみると、オス27頭  
メス11頭の合計38頭のエゾシカが  
捕獲されました。体重の最大記録は  
オスで118kg、メスで101kgと、大  
きな体サイズが記録されています。  
入猟1人1日あたりの捕獲頭数

(CPUE)は0.88となっており、当  
猟区では2日間で1人2頭の捕獲制  
限があることを考え合わせると、非  
常に高い捕獲効率だったといえるで

しょう。上記延べ22回の来村のうち  
捕獲できなかったのは3回のみと、  
捕獲成功率は9割に及んでいます。  
また入猟1人1日あたりの目撃頭数  
(SPUE)は17.5と、他地域と比較  
しても非常に高い値でした。

## セミナーでも実猟に成功

当猟区では野生動物管理の担い手  
づくりを目的に、「新人ハンターセ  
ミナー」を開講していますが、今期  
は4回のセミナーを開催し、延べ37  
名の参加がありました。特に後半2  
回で行われた出猟実習では、3名中  
2名の新人ハンターによる  
シカ2頭の捕獲に成功  
しています。

一方、残念ながら少なく  
とも3件の密猟騒ぎが  
ありました。これにつ  
いては巡視強化など対応策  
を検討中です。

## リピーターさんに いっそう期待

以上のように、売上の  
にはまだまだですが、初

年度としてはまずまずの入込みで  
あったと思います。今期だけで半数  
近くのお客様がリピーターとなって  
頂いたことは、来シーズンへの期待  
につながりました。高い捕獲効率と、  
村内ハンターがガイドにつくこと、  
1日の入猟者数が制限されることな  
どで、ゆったりと安全な狩猟を楽し  
めることが魅力だったようです。今  
期の経験をもとに、来期にむけて入  
猟者の増加とサービスの向上に努め  
ていきたいと思っています。

新人ハンターセミナーで講師を務める  
鈴木正嗣・エゾシカ協会理事



## 会員コラム

# シカ肉は優等生

釧路短期大学生活科学科助手  
管理栄養士  
岡本匡代

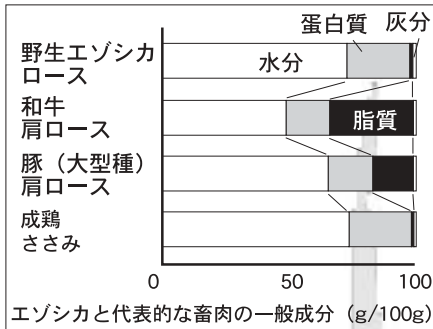


私は食品学という視点からエゾシカを見ています。食品学とは、対象の栄養成分を科学的に明らかにしようとするものだ。この場をお借りして私たち研究グループの成果の一部を紹介したい。

### 分析者泣かせ？のユニークさ

「何の肉に似ているの？」と聞かれたら「四つ足らしくない」と答えることにしている。高たんぱくで低脂質という特長は鶏のささみのようで（グラフ）、鉄や銅などミネラルの豊富さはレバーや貝と肩を並べるほど。脂質の質は青魚や植物にも似ている。脂質量が少ないだけにコレステロールも低い。

実験を始めるにあたっては、結果におよその見当を付けておくものだ。それだけに、想定外の結果であったときには自身の腕を疑ってブルーな気持ちになる。そう、研究開始当初はずいぶん落ち込んだのだ。実はそれこそがエゾシカ肉らしさだったのだが。



### 季節変動は野生のあかし？

各個体のデータがあまりに不揃いだったことも不安の種だった。それが季節変動であると統計学的に判断されたのは、ややしばらく後のことである。夏になると水分が減り、たんぱく質が増加していた。全脂質の脂肪酸成分では、パルミチン酸 (16:0) が著しく増加した一方で、リノール酸 (18:2, n-6) やアラキドン酸 (20:4, n-6) は減少していた。さらに詳しく調べたところ、中性脂質画分での変動が大きいことが明らかになった。

### 栄養たっぷりな“バンビ”

成獣と幼獣の比較にも興味をそそられた。少なくとも脂肪酸成分には違いがあるようである。とくに生後間もない幼獣のそれは、共役リノール酸 (CLA) をはじめ多価不飽和脂肪酸に富んでいた。

### 献立のユーティリティプレーヤー

おしまいは栄養士らしくまとめてみたい。エゾシカ肉は、近年の日本人の食生活に好適な食材と思われる。過剰に摂取しがちなものは少なめで、不足しがちなものは富んでいる。献立作成においても便利な食材なのだ。当たり前前に流通・消費されるようになったとき最も喜ぶのは、現場の栄養士たちかもしれないと思っている。

(C)Okamoto Masayo 2005

## 上條一シェフの 美味世界堪能

当協会主催のエゾシカセミナーが3月6日、宮の森スクエア（札幌）で開かれました。岡本匡代・釧路短期大学助手による講演「エゾシカ肉の栄養成分」（左のコラム参照）に続いて、「エゾシカを丸ごと味わう会」に移行。宮の森スクエア総料理長の上條一シェフが、阿寒グリーンファームさん提供の雌ジカ1頭分のお肉を使って作り上げた数々の見事なお料理を約80人の出席者たちが堪能しました。

（写真上から）■パテ/ゼリー包み■モモのマリネ/カマンベールと野菜巻き■バラ肉のスペアリブ■モモ肉のグリル/ニンニクのピューレ添え■塩パイ包み焼き/カービングサービス■ロースのロースト/蜂蜜とグリーンペッパース



photos / Tsuyoshi HIRATA

上條シェフ自らの給仕でシカ料理を満喫する参加者たち

# ニュージーランドの鹿産業

社団法人エゾシカ協会事務局長 井田宏之



2005年2月13日から約1週間、「エゾシカ有効活用等調査団」に同行してニュージーランド（NZ）を訪ねました。概略を報告します。

## NZにおける養鹿産業の実態

同国で養鹿が始まったのは1960年代。80年代に急発展し、2005年現在では約180万頭のシカが飼養されています。全国に約4000戸の養鹿農場があり、飼育頭数20頭程度の小規模農場から1万5000頭の大規模農場まで形態はさまざまです（平均680頭）。

飼養されているシカは、アカシカと、アカシカ×ワピチの交雑種が80～85%を占めています。他にダマジカ、ルサシカ、サンバシカなども飼われています。

## 野生シカの商品化

出荷の中心は養鹿のシカ肉であり、野生シカの流通割合（輸出）は鹿産業全体の10パーセント程度です。野生シカの狩猟に捕獲頭数上限などの規制はありませんが、狩猟肉を販売・流通するには、ハンターは衛生管理などに関する特別資格を取得しなくてはなりません。ハンターに義務づけられるこの資格は、内臓摘出時の衛生管理など食肉の安全性を確保するために設けられたもので、生体の健康状態を識別できる高度な知識が要求されます。資格取得には2～3カ月かかるそうで、現在の有資格者はNZ全体で100人程度。有資格のハンターは捕獲場所内臓摘出の一次処理を行ない、タグ（耳標）によって捕獲場所や処理の方法を明確にしたうえで食肉処理施設に搬入するシステムです。このシステムは、エゾシカの流通を考える時に参考になるとと思います。

## シカ肉の流通実態

出荷されるシカ肉全体の90%がヨーロッパ向けです。角や皮も利用されています（右の中段の表参照）。  
 いっぽう、NZ国内ではシカ肉の出荷量全体の約2%が消費されているに過ぎません。非常に高価なことが理由です。小売店での価格は、ステーキ用でキロ1600円程度です。NZではシカ肉は最高級肉でした。

## 狩猟の状況

NZでは通年狩猟が可能です。シカ猟のベストシーズンは冬場の4月から8月で、地元のガイドを同伴すれば、いつでも誰でも（外国人でも）狩猟を楽しむことができます。南島のサザンアルプス周辺などが有名な狩猟ポイントで、北島や海外などから多くの狩猟客が訪れるそうです。

## ＜産業規模及び飼育頭数＞

畜産分野	産業規模（収入2003年） （単位：100万NZ\$）	飼育頭数（1999年） （単位：1000頭）
酪農牛	4495	4315
肉用牛	2010	4644
羊（肉・毛）	2859	45680
鹿	180	1677
豚	169	369

1 NZ\$=約80円（2005年2月14日現在）

## ＜シカ製品輸出状況＞

（2004年）

部位	肉	角	皮	その他
金額	182	28	19	8
主な輸出先	西ヨーロッパ	韓国	インド・トルコ	中国・香港

\*その他は、ペニス、尻尾、アキレス腱など。単位100万NZ\$

## ＜ガイド狩猟料金等＞

項目	料金	内容
ガイド料（1日）	400US\$	ガイド料、送迎費、食事代、宿泊費（1日の場合も宿泊が一般的）、保険料など
トロフィーフィー	500US\$	成功報酬として土地の所有者に支払う

（ガイド会社「NZフォーシーズンサファリ」の例）  
 （写真と表は「エゾシカ有効活用等調査団調査概要版」から引用）

## シカ防止に役立つかも…「ひかり反応実験」 第5回「野生動物と交通」研究発表会から

社団法人北海道開発技術センター主催、当協会共催による第4回『野生動物と交通』研究発表会が2月25日、札幌市生涯学習センター「ちえりあ」で開催されました。

同技術センター研究員の野呂美紗子さんのテーマは「エゾシカのロードキル対策の検討に向けて一光に対する反応実験」。「野生動物との衝突事故を防ぐのに、道路脇に赤い反射板を設置する対策が国内外で広く行なわれていますが、本当に赤が効果的なのか、検証した文献は少ないんです」と前置きし、果たしてエゾシカは何色の光を一番嫌うのか、西興

部村内の「鹿牧場公園」で実験した中間結果を報告しました。実験は、給餌場所の手前に杭を並べて立て、取りつけたランプ（赤・白・緑）を点滅させてシカたちの反応をみる、というもの。その結果、「緑色光でのみライン（杭の列）を迂回して通過した個体があったので、光色によって作用に違いがあると考えられます」（野呂さん）。光で事故を防げるのか、だとしたら何色が効果的なのか、今後の研究成果に期待が膨らみます。

また当協会の井田宏之事務局長は、同じ鹿牧場公園内での実験結果をまとめた「電気柵に対するエゾシカの反応試験

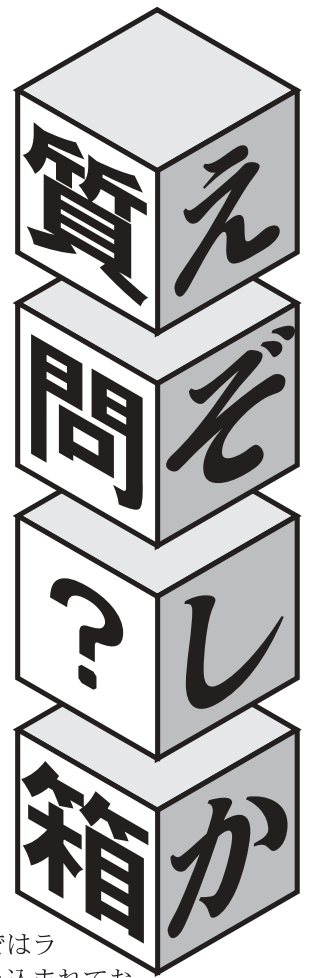
を発表。シカの群れの中に電気柵を設置すると、初めは興味津々で鼻先を近づけるものの、一頭でも柵に触れて感電すると、感電していないシカたちも一斉に飛び退く様子などをビデオ映像で解説しました。

このほかにもシカと交通事故に関する興味深い発表が続きました。全14編を収録したこの日の講演論文集は、2500円で販売されています。ご注文、お問い合わせはエコ・ネットワーク（電話011-737-7841）まで。

（平田剛士）

今号の回答者は……

北海道大学大学院農学研究科家畜生産学講座畜牧体系学分野の  
**近藤誠司教授**。もちろんディア・ハンターです。



**質問1 狩猟を続けたら、シカの群れを減ぼしてしまいませんか？**

科学的知識に裏付けられたしっかりとした狩猟管理が行なわれていれば、まずそんな問題はおこりません。現在までの動物の絶滅は、①個体数が著しく減少しているにもかかわらずとり続けた、②個体数が多かったが、無制限にかつ無定見にとり続けた、③狩猟ではなく環境の悪化によってその動物が生存できなくなった、などです。現在のエゾシカ猟では、このどれも当てはまりませんね。

**質問2 ハンター人口が減っていると聞きましたが……**

はい、その通りです。昭和53（1978）年には全道でおよそ2万人の狩猟者登録をしたハンターがおりましたが、平成15（2003）年には8000人足らずと半分以下になっています。同じくらい重要な問題はハンターの高齢化です。50歳代は全くの若手で、60歳代、70歳代が中堅という現状です。シカは増え続ける一方で、ハンター人口は新たに登録する若手が少なく、高齢者が死亡して減っていくと考えると、ハンターの寿命の方がシカより短いのか！ と思ってしまいます。

**質問3 エゾシカ猟にはどんな銃や弾を使うのですか？**

我が国で狩猟に使用する銃はライフル銃と散弾銃、空気銃の3種ですが、エゾシカ猟ではライフル銃と散弾銃が使われます。ライフル銃は銃身内部に螺旋（ライフルリング）が刻み込まれており、発射された弾丸は回転しながら飛んでいきます。一般に射程は100から300m、うまい射手ですと400～500m、超名人は1000mでも当てるそうです。一方、散弾銃は銃身内部が平滑になっていて、一般にはバラ弾を詰めたケースを使用しますが、エゾシカ猟には大きな一発弾（スラッグやサボット・スラッグ）を使用します。この時は弾丸自体が回転するような工夫がされているか、銃身内部の半分までライフルリングしてある銃（ハーフライフル）を使用します。射程距離は100m程度までです。この範囲であればライフルに匹敵する性能があるといわれ、ディア・ガンとも呼ばれます。なおシカ猟では、ワシ類の鉛中毒予防から、銅弾などの「非鉛弾」使用が勧められております。

**質問4 クリーンキルって何ですか？  
クリーンキルだと、なぜ肉がおいしくなるのですか？**

動物福祉の立場から、できる限り苦痛の少ない方法でシカを射殺し、おいしい肉が回収できるように収穫しなければなりません。これをクリーンキルといいます。できる限り短時間に殺処分するためには、急所、すなわち中枢神経系（脳か脊髄）か循環器系（心臓や動脈）にダメージを与えることがいいのですが、同時に放血が速やかに行なわれ、ただし、消化器官などに傷をつけて消化管内容物で肉が汚染されることのないようにしなければなりません。その点でベストショットは頸椎を破壊すると同時に動脈を切断し体外に短時間で放血する頸部着弾ですが、これはかなり難しいショットになります。そこで、胸部にあたるように撃ち、心肺機能を破壊すると同時に胸腔内へ大部分の出血がおこるように撃つことが薦められています。こうして撃てばシカは短時間に絶命し、放血も十分行なわれ、かつ横隔膜以下の内臓（胃・腸管・肝臓など）を傷つけることなく、おいしい肉が収穫できます。

**質問5 スポーツハンティングの魅力を教えてください。**

基本的に「魚釣り」と同じだと思います。数万年続いた人類の「食べ物を獲る」という根源的欲求と、「獲物との知恵比べ」、「野外での活動」、これら乗り越えて得られる「達成感」、もしくはそれへの「期待感」から成り立っているものでしょう。さらに付け加えれば、現在のエゾシカ猟は「環境の守り手」という側面もあろうかと思えます。

## (社)エゾシカ協会 平成17年度通常総会 5月20日開催予定

社団法人エゾシカ協会の平成17年度通常総会は、平成17年5月20日夕方から札幌での開催を予定しています。4月中に詳細連絡させていただきますので、よろしくお願ひします。

社団法人エゾシカ協会事務局長  
井田宏之

### 動物福祉・養鹿講習会のご案内

NZにおける動物の輸出入、検疫制度と養鹿事業、および動物の福祉について

前世界獣医師会会長・NZ獣医師会会長

Dr. J. Edward

北海道におけるエゾシカの生態と保護管理について

北海道環境科学研究センター主任研究員

梶 光一氏

とき 2005年4月22日午後1時半～5時

ところ 北海道獣医師会館

(札幌市西区二十四軒4条5-9-3)

主催 北海道獣医師会

入場無料ですが、4月15日までに申し込みが必要です。お申し込み、お問い合わせは北海道獣医師会(電話011-642-4826、ファクス011-642-4642)まで。

## もうすぐ開幕！ IMC9



「野生哺乳類と人類の共存に果たす哺乳類学の役割」をテーマに、第9回国際哺乳類学会議「IMC(International Mammalogical Congress)9」が、2005年7月31日(日)から8月5日(金)までの6日間、日本学術会議と日本哺乳類学会の共同主催によって札幌コンベンションセンター(札幌市白石区東札幌6条1丁目)で開かれます。IMCは哺乳類学の世界最大の国際会議で、1973年にモ

スクワで第1回大会が開催され、以後4年ごとに世界各地で開かれてきました。札幌大会はアジアで初めて開催される哺乳類学専門の大規模な国際会議となります。アジア諸国の多くの研究者とともに、アジア地域における哺乳類学の振興と発展にも寄与できると考えています。

世界的な課題であるシカの保護管理に関する研究発表やシンポジウムも目白押しです。どうぞご注目ください。また、ヒグマ、外来種、鳥獣害の公開フォーラム(無料)も予定しています。どうぞご参加ください。より詳しくはIMC9のウェブサイト(<http://www.imc9.jp/>)でご案内しています。

(梶光一・第9回国際哺乳類学会議運営委員会副委員長)



みんなのでつころう  
投稿歓迎御意見有用  
エゾシカ協会ニューズレター

### 社団法人エゾシカ協会ニューズレター

第18号(2005年4月1日)

発行:社団法人エゾシカ協会

会長 大泰司紀之

編集:社団法人エゾシカ協会事務局

事務局長 井田宏之

札幌連絡所 〒064-0803 札幌市中央区南3条西21丁目1-6

電話 090-6260-2946 FAX 011-611-2739

電子メール [ida.yezodeer@r8.dion.ne.jp](mailto:ida.yezodeer@r8.dion.ne.jp)

ウェブサイト <http://www.yezodeer.com/>

無断転載を禁じます。

(C) 2005 Yezo Deer Association, All rights reserved.